

平成 30 年度 第 2 回 複合型サービスきょうりつ（看護小規模多機能型居宅介護）
運営推進会議議事録

日時 : 平成 30 年 7 月 27 日(金) 14:05 ~ 14:45
場所 : あやべ協立診療所 3F 複合型サービスきょうりつ家族談話室
参加者 : 綾部市 : 大島 けい子様
地域包括支援センター : 小野 明日香様
地域住民の代表 (民生委員) : 安達 一男様
利用者の家族代表 : 柴田 直美様
複合型サービスきょうりつ
(計画作成担当者) : 白波瀬 実
欠席者 : (管理者) : 大槻 美智代

1、報告事項

- ・6 月実績 : 延べ登録者数 28 名
短期利用 0 名
- ・平均介護度 : 2.75
- ・利用地域 : 青野、神宮寺、幸通、上野、宮代町、黒谷、小貝、広小路、岡、物部、中筋、高津、鍛冶屋、川糸、綾中、若松、篠田、本町、位田、(於与岐)、(井倉)、(館)、(里) () …新規
- ・サービス別 延べ提供数
通い : 390 回 泊り : 151 回
訪問 (介護) : 244 回 訪問 (看護) : 55 回
全サービス提供回数 840 回 (一人あたり週平均サービス提供回数 6.5 回)
(前回 4 月の実績) 延べ登録者数 27 名
通い : 363 回 泊り : 144 回 訪問 (介護) : 212 回 訪問 (看護) : 41 回
全サービス提供回数 760 回 (一人あたり週平均サービス提供回数 6.0 回)
- ・利用状況…6 月、施設看取りと施設入所により 2 名利用中断。7 月、自宅看取りにより 1 名中断、新規利用 2 名あり。
- ・サービスごとの特徴
通いサービス…1 日 10~15 名程度で推移。
泊りサービス…4~6 名程度が多い。夜間の見守りが多く必要となっている。
訪問 (介護) …訪問回数増加傾向。1 人の職員が続けて複数の利用者を訪問している。
訪問 (看護) …利用者数の大きな変化無し。定期的な健康状態の確認が多い。
- ・ターミナルケア…6/3 朝、施設看取りを行った。開設時から利用の 96 歳。7/11、自宅での看取り、利用開始から短期間であった。

2、地域や介護サービスの課題・地域の状況、要望助言

『暑さ対策』…今年は暑さ厳しい日が続いている。独居利用者でエアコンの使用がうまくできない方がいる。訪問時に、適切な室温となるよう支援を行っている。市内の熱中症救急搬送も増え、病院のベッドも満床との情報あり。

地域の状況では、部屋を閉め切り訪問しても安否が分かりにくいことがある。「冷たい風がきらい」と意図的に扇風機や冷房を使用されないケースも多い。年齢的な感覚が鈍くなっていることも課題。

高齢者に水分摂取を促しても、一度に多く摂取できない。外観等で脱水状態の観察を行うこともある。昔と比べて、暑さのレベルが違うように感じる。複数の方が過ごされる施設では、温度感覚に個人差あるため、同室の方の適切な温度調整が難しいことがある。

『認知症、独居生活』…できるだけ地域・住み慣れた自宅での生活を支援したい。近隣地域の心配が大きいこともある。介護支援側から地域への説明が必要。不安はあるが、本人の希望を大切に検討を行っている。

地域の中で「認知症」との明確な認識や、本人の意識が不足していることがある。地域での見守り・声かけの判断に迷うことがある。明確な症状が無いと対応が困難。

認知症高齢者の火の始末や行方不明が不安との声が多い。生活の習慣となっていることを急に辞めることには抵抗が大きい。介入の状況によっては「物を取られた」とのトラブルに発展したり、近隣住民の認知症への理解が不十分で、感情的な対応になるケースもある。

地域包括で関わりを始めた後、体調を崩され入院等される方が増えた。もともと、生活が不安定であったことが考えられる。医療機関への受診がいつようでも本人の受け入れが難しいケースもある。受診につなげても本人が「大丈夫です。入院もしたくないです」生活の現状が伝わらず、治療に繋がらないことも。同居の介護者からは医師への相談・情報提供の場面では年齢的に自然な症状であれば、本人が苦痛に感じる検査や治療は望まないとの意見もあり。

3、その他

- ・ひだまりカフェ（認知症カフェ）7月28日（土）9：30～

毎回多彩な企画で楽しめる内容となっている。

- ・今年の運営推進会議における外部評価の準備を開始予定。順次、事業所自己評価の準備を開始。

○ 次回、運営推進会議日程 平成30年9月28日（金）14時～

以上